

**新規就農で、トマト作りを開始！**

今回は、愛知県海部郡佐屋町にハウス(766坪)を新設し、トマト栽培に新しく取り組まれる川村美良さん(47歳)をご紹介します。川村さんは、昨年20数年勤めていた会社を退職し、もともと農家であったこともあり、農業をやろうと決心されました。以来、新規就農講座通い、各地の生産者見学など一年余にわたって精力的に歩き廻られ、トマトをやろうと決められたそうです。自分自身は、農業に対しては素人ではあるが、「企業勤めの過程で培った戦略思考、問題解決能力など、自分の持ち味を生かした農業スタイルで、切り抜けていけると、確信した」と、判断され、サラリーマンから農業生産者へと生活基盤変更を展開されました。

栽培は、わからないが、これは、M式スタッフなど専門家に教えを乞う。失敗もあるであろうが、データに残す、論理的指向をするというプロセスを継続することによって、いずれ習得ができて

いくのではないかと、物作りに3年程度は、必要期間と想定しているとのことでした。

現在、輸入農産物増大で、生産者が苦境に立たされています。また、品質格差がありますが、これもやがてなくなってくるであろう。品質が並んだとして、果たして国産品が壊滅するのでしょうか？私はそうは思わない。消費者の国産品指向は、根強く残る。値段が高くてもしっかり国産品に手を伸ばす現状(例えばしいたけ、牛肉など)は変わらないと考えている。要は、少々高くても買ってくれる、消費者が選択してくれる品質のものを生産することに注力すればいいのではないかと、新鮮・安全・おいしさにこだわりたいと筋道たてたお話をいただきました。

自分の弱いところ、強いところを認識し、自分にあった自分流の農業スタイルを作り上げていきたいとの考え方は、施設作りにも反映されています。農業界

は、自分が生きてきた工業界に比較して機械化が遅れている。いろいろな要因があるのだろうが、自分がやるなら、機械のできる場所は機械にまかせると、基本方針を設定されました。今回採用されたものは、各ベットの水位調節を連通管と一箇所の水位調節槽で実施する。あるいは作形を長段水平放任栽培による年1作とし、8段までは当該ベットの栽培し、それ以後は、隣接ベット上へ展開する。その下では、別の作物を栽培する。さらに細霧装置によるミスト冷却、酸/アルカリ水の葉面散布兼用など、省力化に工夫を取り入れておられます。今月の22日播種し、12月末初出荷を目指して、新生農家としてスタートされます。新しい概念で、自分流の農業スタイル確立目指される川村さん、今後の益々のご活躍をお祈りするとともに、M式としてもお手伝いしていきたいと思っています。

(担当 柏原 功)



**みつばサミット開催検討！**

みつばサミットを開催しては、との提案が愛知県みつば栽培農家からありました。近年の野菜安は農家経営にも方策検討が求められる状況となっており、全国からみつば栽培農家が集まり、消費拡大策の検討、販売展開方策の検討など、当面課題となっています。「いかに販売するか」「消費す

そ野拡大をはかるか」を中心に議論する場を設定しては、というものです。みつばの日活動など従来からの取組もありましたが、もう一歩踏み込んだことを生産者が真剣に検討するのでもいいのではとの事から、弊社も前向きに検討を進めることにしております。安値時期に冷凍保存検討、みつば関連の商品化などアイデアを出せばいろいろあ

ると思います。

まずは発起人メンバーを設定し、実現に向けて動きたいと考えております。事前準備をし、11月名古屋で開催したいと思っております。趣旨にご賛同の方、発起人に名を連ねてやってやろうという方、こんな意見があるなどの方々M式までご一報ください。